2003年(平成15年)2月6日(木曜日)　読売新聞

松伯美術館花鳥画展

台湾人留学生 陳さんに大賞

日本画経験3年半「夢のよう」

かぼちゃに元気もらった

若手日本画家の育成を目指す奈良・松伯美術館の公募展「第九回松伯美術館花鳥画展」(同美術館、読売新聞大阪本社、読売テレビ主催)の入選作が五日決まり、京都市芸大大学院の台湾人留学生、陳宜青さん(27)=同市西京区=が最高賞の大賞に輝いた。陳さんは「夢のよう。受賞を励みに、さらに成長したい」と次の作品に意欲を見せている。

受賞を励みに新たな作品に挑む陳さん

大賞を受賞した陳さんの「かぼちゃ」

陳さんは、台湾・台中市内の大学に通っていた一九九九年、展覧会で見た日本画にひかれ、翌年九月から京都市芸大に留学している。日本画の経験はわずか三年半だが、見事に才能を開花させた。

受賞作の「かぼちゃ」は、畑で育つかぼちゃの葉や実が、強い日差しを浴び輝く様子を、銀色を基調とした微妙な色合いで表現した。

題材となったかぼちゃ畑は、昨年の夏、大学の裏山を散歩中に偶然見かけた。作品を出品しても落選が続いて落ち込んでいた時で、「かぼちゃをじっと見つめているうちに癒やされた。暑い中で必死に生きようとしている姿に力強さも感じ、すぐに描こうと思った」と振り返る。

途中、どう表現していいか分からなくなり、出品をあきらめようと思った時もあったというが、元気をもらった「恩返し」のつもりで愛情を込めて描き続けた。

陳さんは「指導していただいた先生のおかげ。これからは自信を持って頑張りたい」と話している。